

労働組合におけるジェンダー平等—男女平等参画の実現に向けて労働組合は何をすべきか—

「労働組合におけるジェンダー平等に関する研究プロジェクト」(*座長)

* 篠塚 英子 (お茶の水女子大学名誉教授、 日本司法支援センター(法テラス)理事)	石塚 浩美 (産能短期大学教授)
永瀬 伸子 (お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科教授)	石原 (長町) 理恵子 (日本経済研究センター副主任研究員)
山谷真名 (実践女子大学非常勤講師)	水落 正明 (三重大学人文学部准教授)
阿部初子 (自治労女性部長)	村尾 祐美子 (東洋大学社会学部講師)
西野ゆかり (基幹労連中央執行委員)	徳木 恵 (前UIゼンセン同盟男女参画・社会運動局部長)
亀崎 弘記 (電力総連労働政策局長【~2008年8月】)	池田 啓子 (日教組女性部長)
木村 和子 (サービス・流通連合 男女共同参画推進室副室長)	井坂 友紀 (生保労連労働局)
芳野 友子 (連合東京女性委員会委員長)	遠藤 唯充 (電力総連組織局次長【2008年9月~】)
	片岡 千鶴子 (連合男女平等局長)
	篠原 淳子 (連合生活福祉局局長)
	真島 明美 (連合東京男女平等局部長)

連合総研では、2004年に、お茶の水大学からの委託を受け、連合男女組合員を対象として「労働組合におけるジェンダー調査」を実施した。この調査結果を労働組合活動の実践の場で討議素材として活用してほしい、組合活動家と研究者が議論の交流をできる場をつくりたいとの思いから、2008年6月に、連合総研内に「労働組合におけるジェンダー平等に関する研究プロジェクト」を設け、組合関係者に参加していただくワークショップの開催を目的に、4回にわたり事前研究会を開催し、議論を重ねてきた。

本書は、その成果報告会として2008年11月に開催した連合・連合総研ワークショップ「労働組合におけるジェンダー平等—男女平等参画の実現に向けて労働組合は何をすべきか」の記録集である。

目次

■ The 1st Session—労働組合は労働者のワーク・ライフ・バランスに貢献してきたか

- 報告1／日本の雇用慣行は新しいWLBの世帯モデルを必要としている
- 報告2／2つの「柔軟な働き方」は、ワーク・ライフ・バランスに貢献しているのか
- コメント1／「女性に働きやすい職場は男性にも働きやすい」をキーワードに
- コメント2／長時間労働の改善と育児短時間勤務制度の就学時までの拡充をめざして
- リプライおよび討論

■ The 2nd Session—労働組合は女性の参画を保障してきたか

- 報告1／女性労組リーダーを増やしていく合意形成の枠組みを求めて
- 報告2／むしろ女性が組合活動に参画しづらくなっている現実がある
- コメント1／社会的には男女平等の流れが強くなった一方で労組の女性リーダーは減っている
- コメント2／ワークもライフも担っている女性教職員は組合活動から遠ざかってしまう
- リプライおよび討論

■ 総括討論—男女平等参画に向けて労働組合は何をすべきか資料